年頭のごあいさつ

廿日市市長　松本 太郎

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は市政の推進に格別のご理解とご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返って

昨年、我が国では20年ぶりとなる、大阪・関西万博が開催されました。来場者は2500万人を超え、フランス館での、厳島神社とモン・サン＝ミッシェルの特設展示をご覧になられた方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。フランスとの交流事業も展開し、廿日市市を世界にPRする絶好の機会にもなりました。

また、冠高原で日本最古とされる遺跡が発掘され、これまでの歴史を塗り替えるかもしれない大発見がありました。現在、詳しい科学的な検証が行われていますが、その結果次第では、本市に新たな魅力が誕生することになります。期待を込めて待ちたいと思います。

昨年、我が国で初めての女性の総理大臣が誕生しました。また、広島県においても県政史上初となる女性の知事が誕生しました。

今後、国、県において新たなリーダーのもとで、これまで積み上げられてきた問題・課題の解決に向けて合理的な政策が展開されることを期待しています。また、廿日市市は、国、県と連携を密にしながら基礎自治体としての役割を果たし、市民の皆さんにより豊かな暮らしを提供してまいります。

未来につながる新たな年に

令和8年度からのまちづくりの指針となる総合計画「未来ビジョン2035」がスタートします。策定にあたり多くの市民に参画をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

「安心に包まれ ワクワクが広がる 未来への挑戦を楽しむまち　つなぎ　つながり　ともに歩む」というまちの将来像の実現に向け、「社会変化に対応した持続可能なまちづくり」、「安全・安心な暮らしの確保」、「多様性と包摂性のある地域社会の実現」、「多様な主体によるまちづくり」の4つを大切に、市民一人一人がともに幸せに暮らせるまちづくりを進めてまいります。

世界遺産登録30周年

社殿を中心とする厳島神社と、前面の海、及び背後の弥山原始林が平成8年に世界遺産に登録されてから、今年で30周年を迎えます。それを記念して、国内外からの観光客に向けた観光プロモーションや、地域の皆さんと行うイベント開催など、各種の周年事業を展開してまいります。

広島県では、4月から、地域資源の魅力向上、旅行者の受け入れ環境の充実、その他の観光の振興を図る施策に要する費用に充てることを目的とした宿泊税の課税が始まります。世界的観光地である宮島を擁する本市にとって、新たな財源が生まれることは大きなメリットです。この財源を有効に活用し、おもてなし環境の向上や宿泊客の増加に繋がる魅力づくりなどを進め、観光消費額の向上、さらなる観光産業の発展、地域経済の活性化に繋げていきます。そのために「稼ぐ観光」、「持続可能な観光地域づくり」の実現に向け、専門性と機動力を持つ組織「はつかいち版DMO（ディーエムオー）」を立ち上げます。

幸多き一年に

新しい年が、市民の皆さまにとりまして、健やかで喜びに満ちた一年となりますことを心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとします。

はつトピ！

はつかいちの話題を提供します

11/5~11/9 台湾・基隆（キールン）市の仲間と交流

アジアトライアスロン選手権の開催地という縁から相互訪問を実施している台湾・基隆市から、中学生11人が来日し、本市の中学生と交流を深めました。

今回の訪問で生徒たちは平和記念公園の散策や市内の中学校で、授業、部活動を体験しました。体験授業では、琴の演奏や柔道、茶道などを通して、日本の文化に触れることができました。

さらに、ホストファミリーとの交流も行われ、文化や生活習慣の違いを体験することができました。

今回の訪問を終え、廿日市市の生徒からは「他の国の人たちと関わることができて、自分がどう接すればいいか、よく考えることができた」という感想がありました。

▲大野東中学校の部活動体験でお茶をたてている様子

11/10 サンチェと身体を動かそう！

池田保育園に、(株)サンフレッチェ広島のマスコットキャラクター「サンチェ」がやってきました。

年長園児たち20人はサンチェと一緒にリズムに合わせて元気いっぱいに身体を動かしたり、「サンチェたいそう」を楽しんだりして、笑顔の時間を過ごしました。サンチェと一緒に身体を動かした山縣葵葉（やまがたあおは）さんは「サンチェくんとジャンプするのが楽しかった」と話しました。

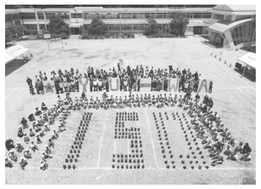
これは(株)サンフレッチェ広島と宮島ボートレース企業団の共同事業で、園児と一緒に達成感を共有しながら身体を動かす楽しさを教えることを目的としています。廿日市市内では初めて実施されました。

▲手を広げたり、屈伸運動をしました

11/15 友和小学校創立150周年

友和小学校は、創立150周年を迎え、記念式典を実施しました。第一部では、6年生による友和・玖島の歴史発表、3年生による佐伯音頭の発表、RED☆EYE（レッドアイ）と一緒に製作した記念ソングライブなど、第二部では、市民センターで活動するクラブと児童が一緒に行う演奏や合唱、神楽の鑑賞など、保護者や地域の皆さんと一緒に楽しみながら、150周年を盛大にお祝いすることができました。

吉久瑠菜（よしひさるな）さんは「記念すべき年の6年生になれてとても嬉しかったです。これからも友和小学校を大切に守り続けたいです」と思いを新たにしました。



▲鮮やかな花で作られた150の数字を皆で囲みました

11/16 第1回けん玉ジュニアカップ廿日市2025

グローバルリゾート総合スポーツセンター　サンチェリーでけん玉ワールドカップとあわせて第1回けん玉ジュニアカップが開催されました。

けん玉ジュニアカップは市内の小学校低学年を対象とした3人1組でのチーム戦。全6組が出場し、優勝したのは、3人とも「もしかめ100回」に成功した「1年3人組」チーム。もしかめは、童謡「うさぎとかめ」のリズムに合わせて玉を大皿と中皿に交互に乗せ続ける技で、100回が近づくにつれて会場は大変盛り上がりました。1年3人組の皆さんは「技が成功したときが楽しい。けん玉のコツは膝と持ち方。また来年も出場したい」と話しました。

▲優勝した「1年3人組」チーム。写真左から渋谷さん（大野東小）、森野さん（地御前小）、岡村さん（地御前小）

宮島でごみになるものは減らしましょう

千年先も、いつくしむ。
宮島 MIYAJIMA

ごみを持ち込まない、増やさない、散らかさない

問 宮島企画調整課☎㉚9227

市は、宮島まちづくり基本構想を道しるべとして、宮島で「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりに取り組んでいます。

宮島地域のごみ対策の取り組み

宮島では、観光客によるごみの散らかし捨てや鹿によるごみの散乱などが問題となっています。観光客のマナー啓発や、IOT（アイオーティー）スマートごみ箱（※）の設置など、宮島地域の特性にあったごみ捨ての仕組みの構築に取り組んできました。

取り組みの一環として、令和7年11月には「宮島ごみ持ち帰りマナーアッププロジェクト」を実施しました。来島者に手提げクリーンバックを配布し、ごみの持ち歩き、持ち帰りを呼びかけました。このクリーンバックは宮島で回収されたペットボトルを一部再利用して製作されたポリ袋です。

▲（写真上下）プロジェクトの様子

引き続き、〝住む人〟〝訪れる人〟がごみ削減の課題を「自分ごと、みんなごと」として取り組む、総合的なごみ対策を実施していきます。

（※）ごみ箱内のセンサーがごみの量を検知し、自動的に約5分の1まで圧縮します。集積状況は遠隔で確認し、回収作業の効率化につながっています

持続可能な観光地域づくりに取り組んでいます▼